

一級河川 六軒家川 防潮堤耐震対策事業

大阪府 西大阪治水事務所

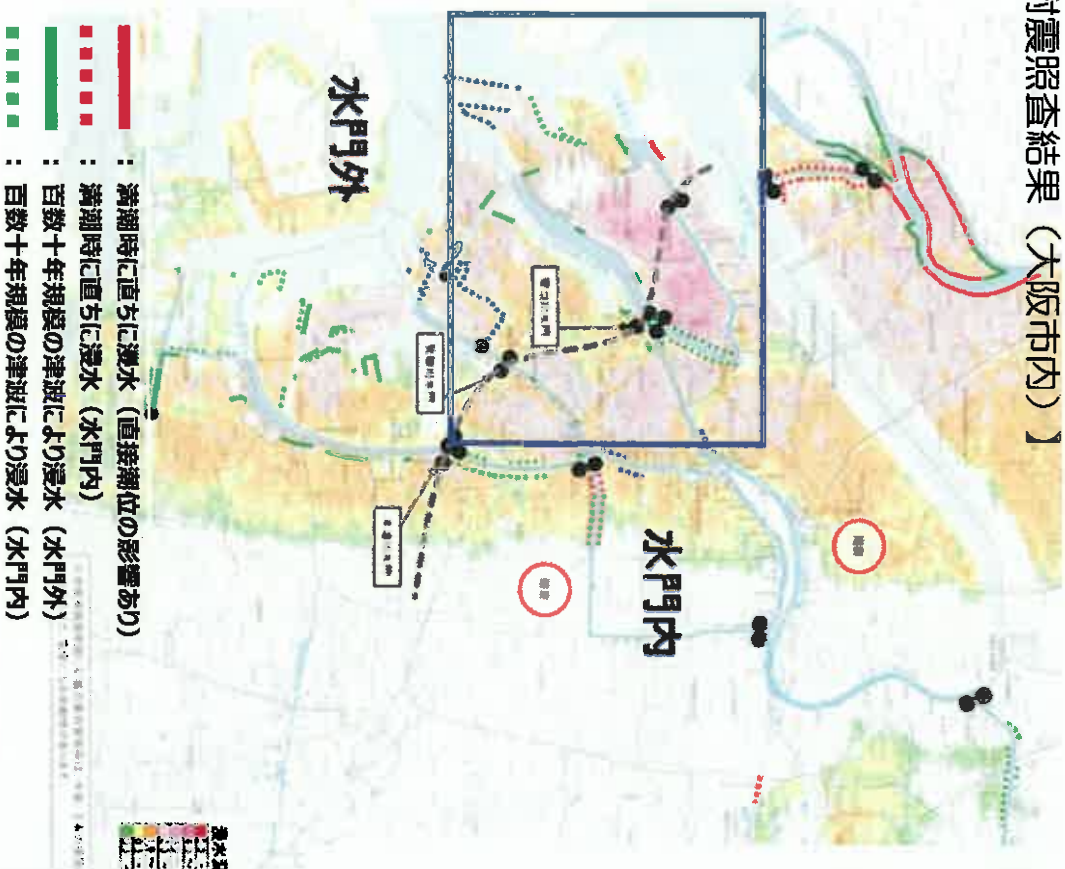
平成30年5月30日

大阪市内河川における 南海トラフ巨大地震対策

地震津波対策

- ・大阪府では、これまで「第一線防潮堤（水門含む）」にて高潮による被害を防御
 - ・高潮対策により整備した防潮堤、水門の「高さ」は、南海トラフ巨大地震の津波に対しても概ね確保
 - ・南海トラフ巨大地震では液状化に伴い、防潮堤が変位（沈下等）し高さを維持できないことが判明
- ➡ 既存防潮堤の液状化対策等を実施し、機能維持を図り津波等による浸水被害を軽減

【耐震照査結果（大阪市内）】



◆防潮堤耐震対策工 優先順位の考え方

平成26年度を初年度とし、対策全体を10年で完成することを目標

- ・水門より外側で、地震直後から満潮位で浸水が始まる箇所第一線防潮ラインについては避難が間に合わないため、最優先で完成

【赤実線：L=8.2km：3年で完成】⇒ **平成28年度完成**

- ・水門より外側の第一線防潮ラインで、地震直後の満潮位では浸水しないが、百数十年規模の津波により浸水する箇所および水門の内側等であっても、地震直後から満潮位で浸水が始まる箇所

【緑実線・赤点線：L=9.4km：5年で完成】

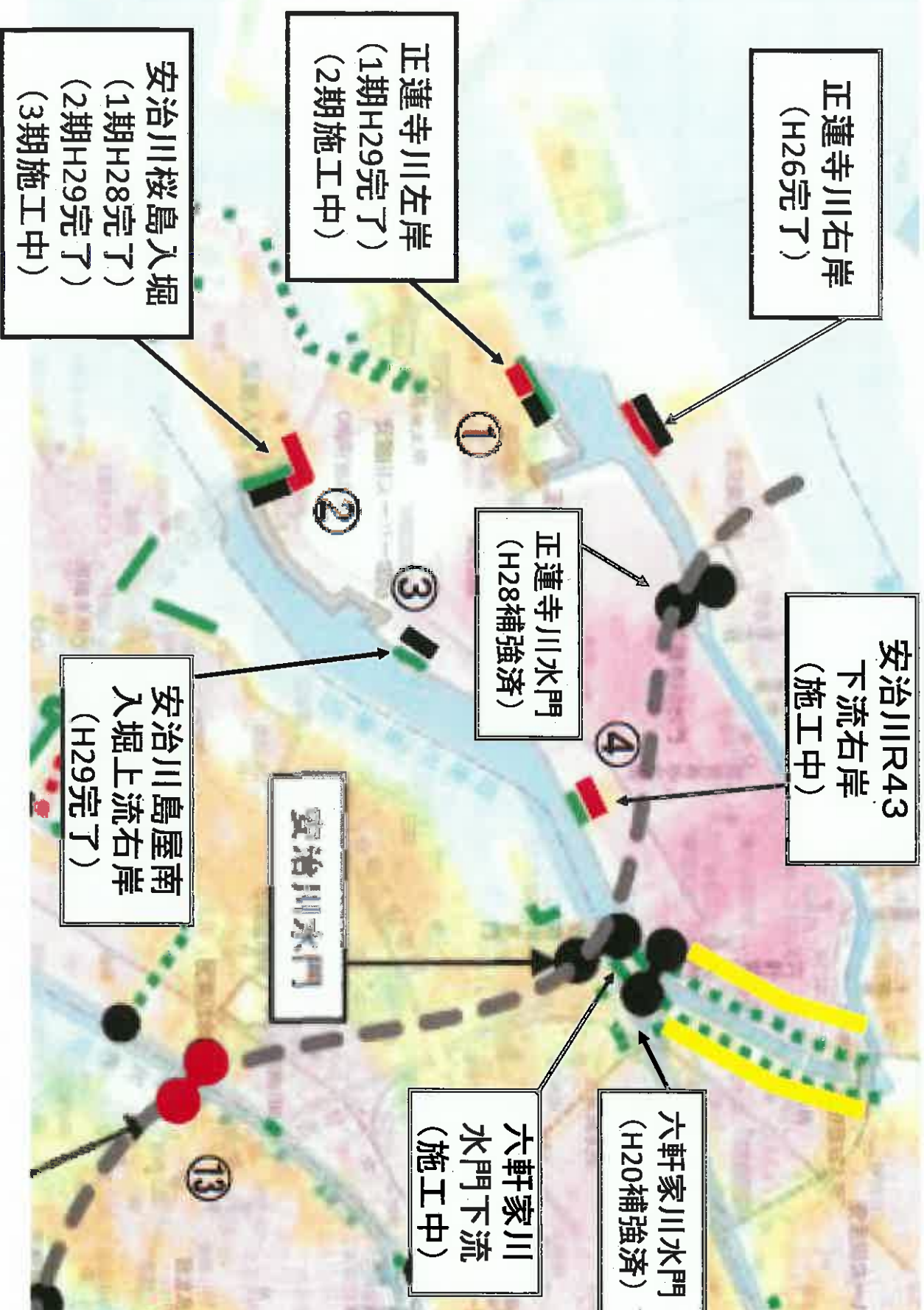
- ・水門上流側にある防潮堤は、第一線防潮ラインの液状化対策に引き続き実施

【緑点線：L=6.0km：10年で完成】

◆水門の耐震耐津波対策 優先順位の考え方

- ・津波発生時には、確実に水門を閉鎖できることを最優先に、地震の「揺れ」に対する水門耐震補強や、遠隔操作化・自動化を実施し、早期に完成させる。
- ・津波来襲後も洪水や高潮等の災害から生命・財産・生活を守るため「津波の波力」により影響を受ける水門の耐津波補強を実施する。

此花区内の耐震対策必要箇所を進捗状況

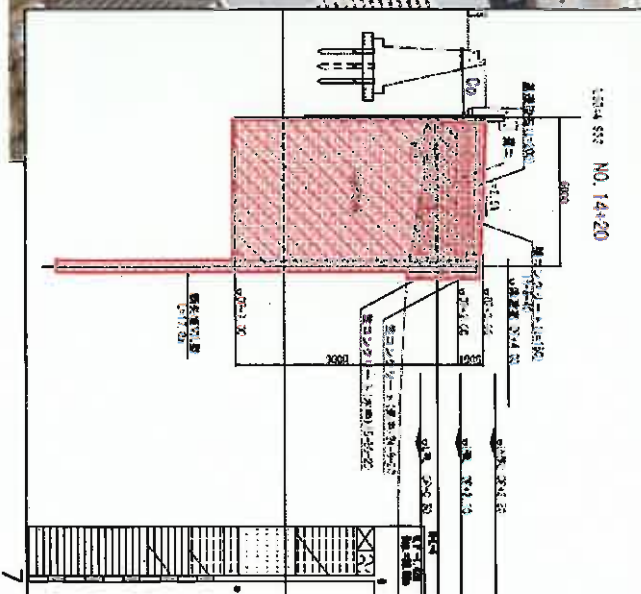
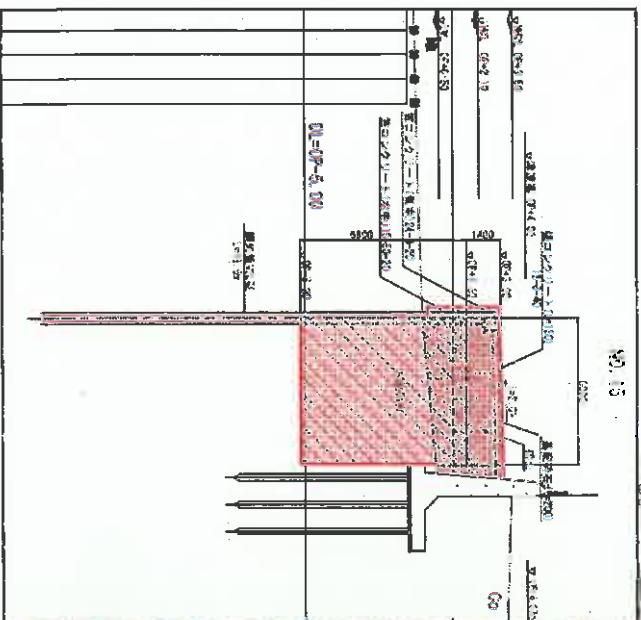


六軒家川における 防潮堤耐震対策事業

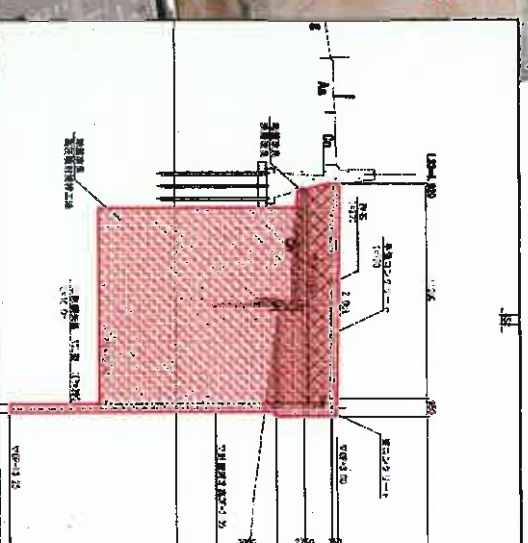
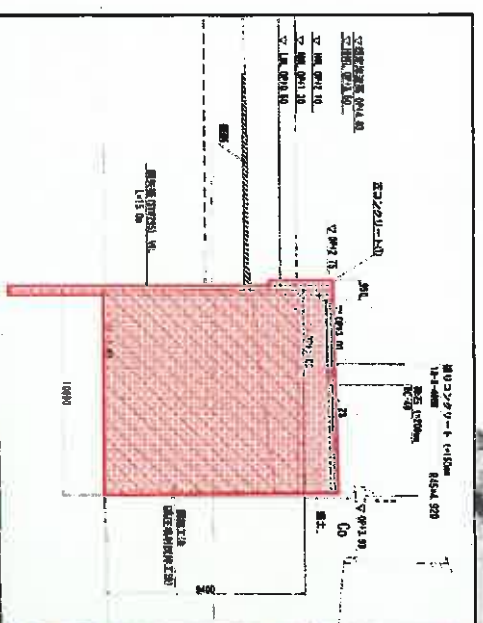
要対策範囲



【対策工（朝日橋上流）】



【対策工（JR橋梁～朝日橋）】



六軒家川耐震対策イメージ

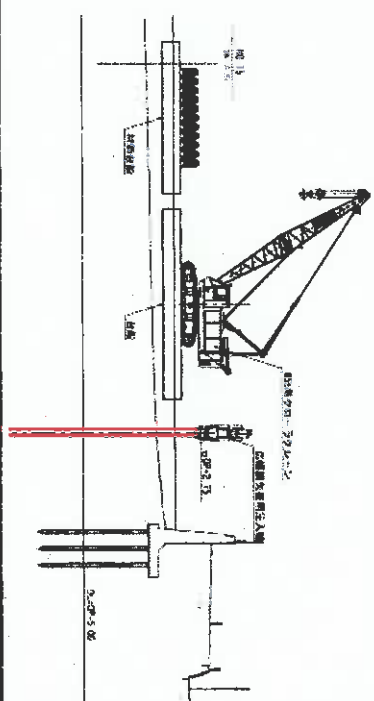
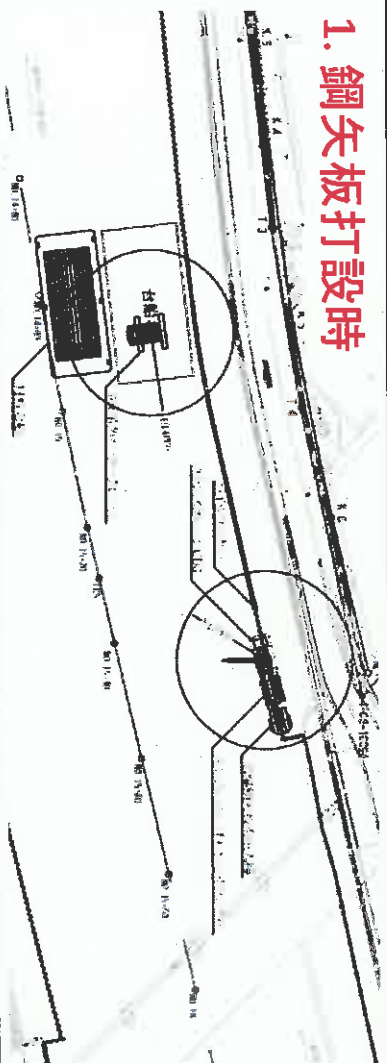


歩道橋（六軒家橋）から上流方向

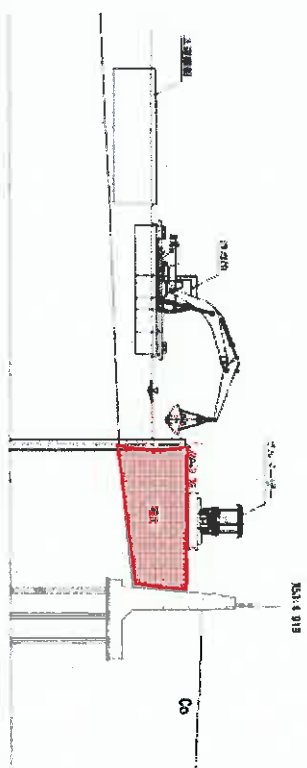
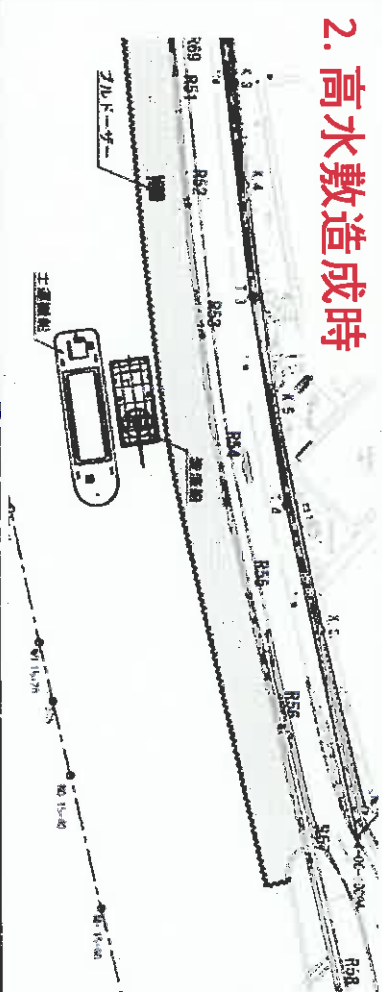
【施工方法（一般部）】

施工方法は、受注業者が主体的に決定するものであり、このとおりの施工となるかどうかは未定

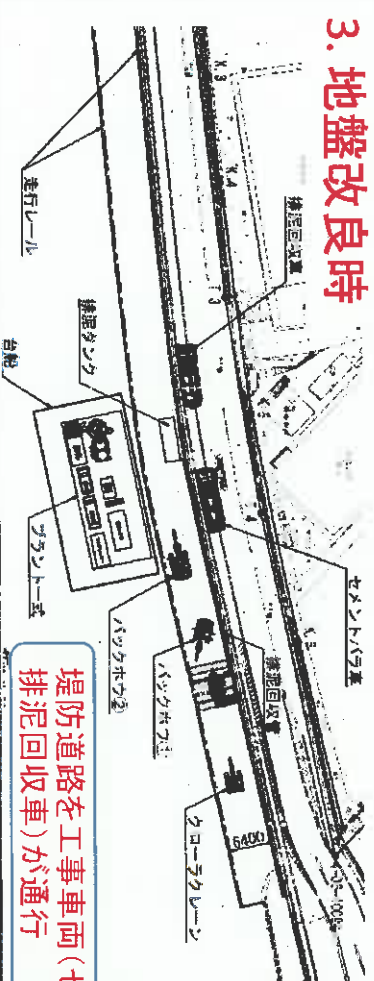
1. 鋼矢板打設時



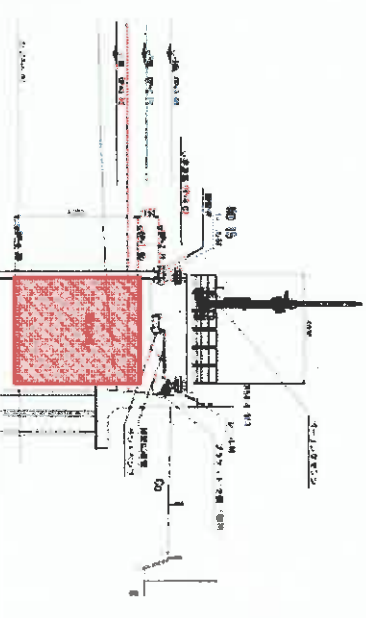
2. 高水敷造成時



3. 地盤改良時



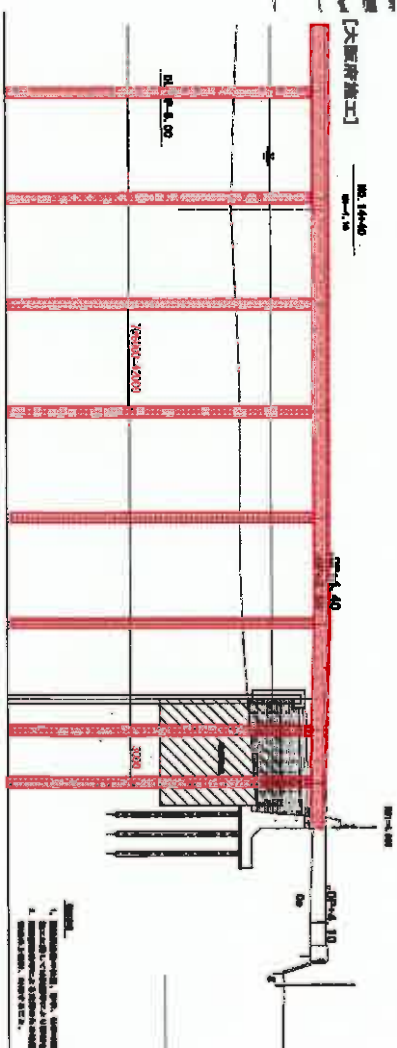
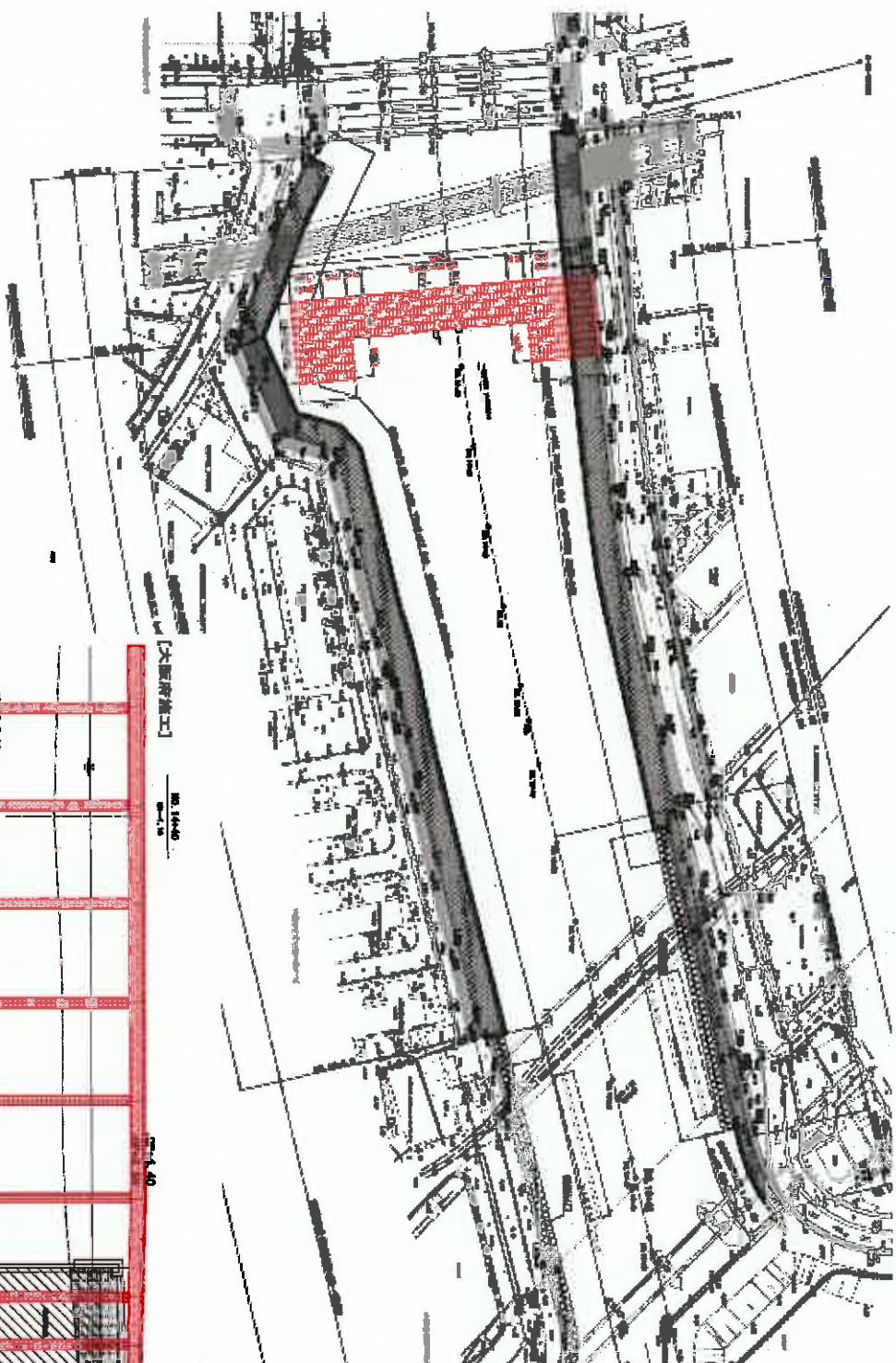
堤防道路を工事車両(セメント車、排泥回収車)が通行



【施工方法(朝日橋上流)】

仮設構台イメージ

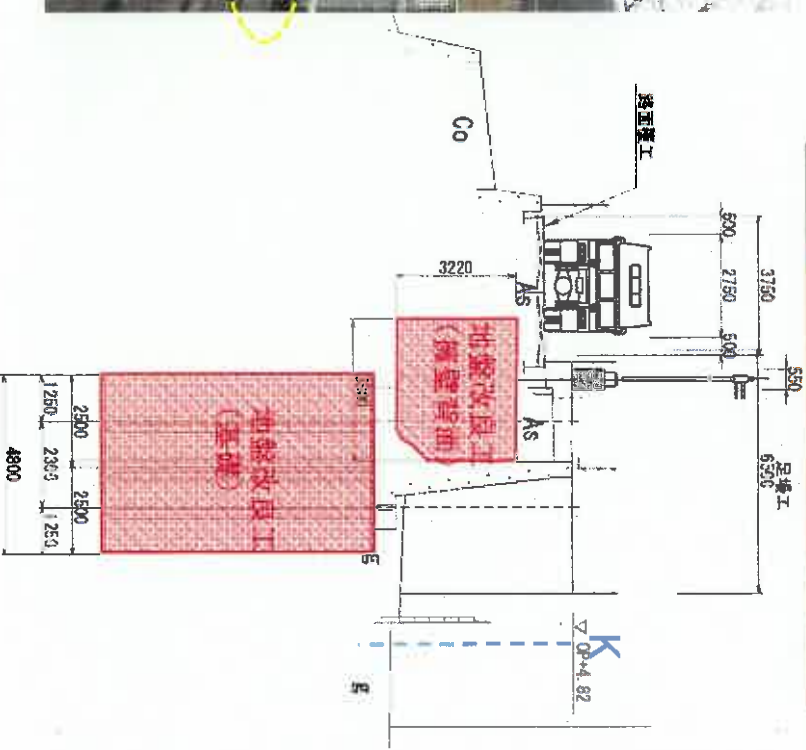
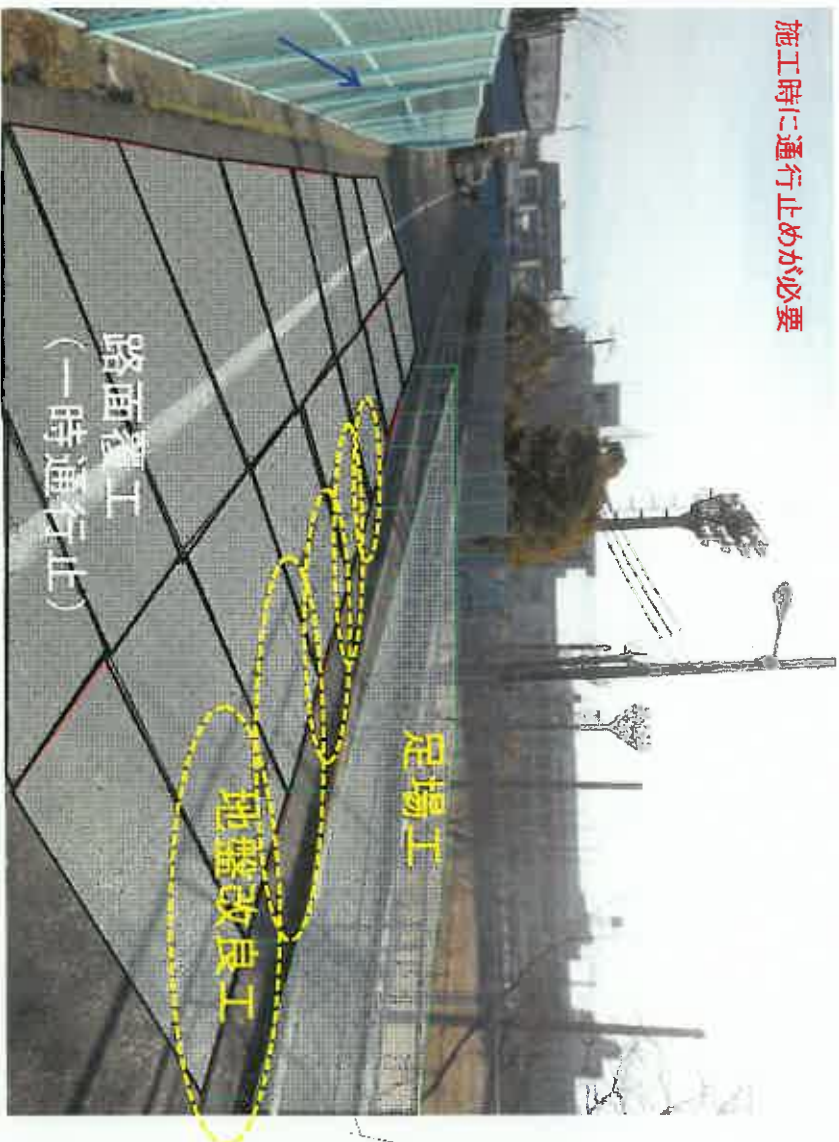
施工方法は、受注業者が主体的に決定するものであり、このとおりの施工となるかどうかは未定



【施工方法(春日出橋～JR橋梁 右岸)】

施工方法は、受注業者が主體的に決定するものであり、このとおりの施工となるかどうかは未定

施工時に通行止めが必要



【施工順序 (案)】

朝日橋上流

JR～朝日橋 左岸

JR～朝日橋 右岸

水門～JR橋梁

